

宮城県地域生活支援事業 障害者週間推進業務

第40回 障害者による 書道・写真全国コンテスト

宮城県大会 審査結果発表 !!

審査員による厳正なる審査の結果、各賞が決定しましたので
発表いたします。たくさんのご応募ありがとうございました。

応募総数 164点 (書道作品144点、写真作品20点)

宮城県障害者社会参加推進センター

書道部門 総評

今年の作品は時代性や社会の状況を選文したり、それぞれに今までと違った内容のものが多くみられて高いレベルとなりました。惜しまれるのは少し気をつければ良いだけの誤字。私としては是非とも選びたいと思っても、全国大会に出した時の作品への理解など、20点から始まった賞候補作を半分にすることは至難でした。また、どうしても外さざるを得なかった作品にも多くの心打つものがあったことは今後の希望です。指導に当たられた皆様に感謝！

加納 鳴鳳 (河北書道展 特別顧問)

写真部門 総評

第40回「障害者による書道・写真全国コンテスト」宮城県大会、おめでとうございます。今回の出品者は20名でした。風景写真がほとんどでしたが、良い作品がありました。見慣れた風景の中で被写体を見つけるのは大変ですが、注意してみると身近にも多くの素材がありますので、楽しみながら発見し、いろいろな角度から挑戦してみてください。来年も素晴らしい作品を期待しています。

佐々木 光一 (公益社団法人宮城県芸術協会 参事)

書道部門 審査結果・講評

殿 堂 入 り

※全国コンテストで3回入賞された方は宮城県大会「殿堂入り」とし、入賞対象外とします。

青山 良子 「譲」

“さすが”と言うしかありません。破筆においても力むことなく自然体の流れの中にメリ、ハリを効かせて内容の濃い一文字となりました。

ご健筆を祈り上げます。



金 賞

石垣 陸 「免許」

伸び伸びとしていて気持ちの良い明るい作品です。全体としてのまとまりも良いです。

フルネームで仕上げて欲しかった。



銀賞



木村 三和子 「夏まつり」

爽やかで、つややかな作品です。漢字とひらがなのバランスも大変良く、しっくりまとまりました。



菅野 理一 「神仏」

非常に詳しく書道を学んでいる様子。どっしりとした存在感のある作品。“申”がもう少し拡がりがあればと感じました。快作です。

銅賞



佐々木 春美 「希望」

一本の縦画“希”の最終画がまっすぐならば…と惜しまれます。伸びやかな線、とても素直に書けています。



千葉 義博 「仙臺七夕」

“台”を“臺”の旧字にして単調になりがちな四文字を見せ場ある作品に仕上げています。筆の自在感も良く秀作です。



高橋 伸也 「立夏」

一本一本が力強く、張り詰めた緊張感がとても良い。これは多くに共通するのですが… 紙面の中心もう少し上に書いて欲しいなあ…と。

審査員特別賞



加藤 心遥 「食」

パワーは素晴らしい。書き進むにつれて調子が上がって後半から最後のハライまで実に充実。完成度も高い楽しみな一人です。



大村 弘造 「花見」

堂々たる作品。やや下につまってしましましたが何と言っても一本の線の力、充実感に圧倒されます。



千葉 邦雄 「太」

この作品は作者の気力、感じた何かを筆に託して実に丁寧に表現されています。地面を突き破る迫力があります。

奨励賞

小玉 純夫 「星夜」

二文字を通して中心がしっかり取れています。“夜”は少し墨が入りすぎましたが“星”的線も間隔もとてもうまくできています。

中澤 拓 「夏至」

線に力強さがあります。“至”的横画、“夏”的払いに、とても力強さがあります。

畠山 聰太朗 「自分の好きな4つの言葉」

難しい色紙にバランス良く丁寧に書けています。これだけの文章を書く気持ちの充実に脱帽です。

平塚 金一 「一の蔵」

“一の蔵”私の先輩が清酒“一ノ蔵”を書いています。後半の大膽さは見事！これからも楽しく書いてください。

大江 康彦

「渓谷」

伸びやかな “ハライ” が爽やかです。大変完成度が高いのですが “渓” はもったいないですね。

佐藤 正己

「花火大会」

この四文字を紙面に収めるのは至難の業。悠々と伸びやかに書けているところが良いです。もう少し重心を下げましょう…

佐藤 浩恵

「吟釀」

名前までしっかりと丁寧に書けています。もう少し太く正確に書ければ今後益々楽しみな方です。“酉” ではないでしょうか。

渡辺 美枝子

「希望」

左手で書くことは思っている以上に体に負担がかかり大変なのですが… “希” の三画目、この素晴らしさ、ほれ惚れする。隸書の如き！良く頑張っています。

鎌田 久夫

「涼風」

年齢かつ左手で…。ただ驚きと敬意を表します。線の割れは左手独特のもの。とにかく良く書けています。

菊地 晶彦

「平和と絆」

細身ですが全体の調子が無理なく整っています。行書をも含んでいますから… もう少し流れがあればなあ…と。

佐藤 暉男

「平和」

本当に平和の尊さを思う毎日。日本も決して安全ではなくなりつつあります。ゆったり温かい作品。“平” の横画をあければ更に良くなります。

今野 学

「神風」

ご自分のネライ通りにカスレが生命感を加えています。“風” と比べて “神” が細長くなり惜しかった！

後藤 知恵 「やさしさ」

本当に優しい“やさしさ”です。墨が濃いわりにしっとり仕上がっています。一つあげれば、下に“さ”が二つ… これは大変難しいですね。

平塚 俊郎 「信頼」

横画が整然と平行に書かれていて実に安定しています。これで縦画が太くなれば仕上がりというところ！

芝口 ゆかり 「前進」

難しい“シンニョウ”は頑張っています。“隹”は横画をもう少し上がり気味だと動きが加わります。丁寧に書けています。

阿部 まさ子 「人生」

何度も見直しながら思わず“うまいなあ！”と… 縦画が曲がっていたりはしていますが、ハライや最後の横画、プロでも顔負けです。

阿部 志勇 「四輪駆動」

とても車が好きなんですね… この難しい四文字を良く収めました。これからも好きな言葉をどんどん書いてください。

後藤 聰 「半分」

人生 “半分”力を抜いて良いですね。全体に丁寧にまとまっています。もう少し太ければと… 惜しまれます。

阿部 浩士 「銀河」

少し柔らかい筆なのでしょうか… しなやかな線で仕上がっています。強弱がもう少し加わると良いと思います。

管野 祐子 「夕焼け」

紙の中心にしっかり書けています。全体として大きさにも変化があり、ひらがなが良く効いています。

佐藤 妙子

「不屈の精神」

良く頑張りました。一行目の力強さはとても良いです。“精神”もう少し近づけば良かったですね。

須藤 祐一

「星空」

ちょっと“空”が下につまってしまったのは惜しかった。縦、横の太さを丁寧に書くとグンと良くなります。

富田 かを子

「大地」

どっしりと構えて安定しています。特に“地”は余白の美しさが素晴らしい。これからも元気で書を楽しんでください。

日野 教央

「栄光」

流れもあり、書きなれた作品です。気持ちも途切れずにしっかり書けています。もう少し大きめにしたいですね。

高橋 美佳

「生きる」

何気なく書いているのですが線に大きな魅力を秘めている楽しみな人です。特に“生”が良い！

菅原 陽菜

「向日葵」

皆さん実にしっかり書いて嬉しいです。“向”という文字は難しいのですが非常に力強く、丁寧です。

及川 琥珀

「星座」

“座”は難しいですね。非常に筆先を上手に使って鋭く書けています。中心を揃えたかったですね。

畠山 蒼士

「才能」

皆さんの若さですから本当にこれからどんどん伸びて行きます。文字は簡単に形がとれませんが、自信を持って頑張りましょう。

赤間 銀侍

「煌炎」

“火”が三つもあり難しい文字への挑戦になりました。“炎”は大変力強くまとめられましたね。

村上 由美子

「光る君へ」

ドラマのタイトルの様です。作品のイメージがあって作り上げている感じが良いと思います。“る”が太いと良かった。

鈴木 勝治

「道」

“シンニョウ”は書道の卒業課題のようなもの… 最後さえ上手に筆を浮かせれば出来上がり！そこまでは満点。

大森 透

「天体」

皆さん思いがあって丁寧に書いておられます、ハライをもう少し頑張ってみてください。断然出来が変わります。

佐野 敬太

「友」

最後のハライはズッシリと存在感のあるものに仕上りました。左のハライはもう少し遠くをねらうと良いですね。

渋谷 有希

「道」

書展などで見かける横書きの構成。“首”の部分の張りつめた線と、一気に走り抜けるシンニョウ。最後の盛り上げも効いている。

大場 繁

「自立」

どっしりと書けています。それぞれの入り方も丁寧です。“立”の横画の反りが大変きれいに仕上りました。

佐々木 瞳子

「多様性」

大変難しい漢字三文字。特に“様”は複雑で形のとりづらい文字です。“多”“性”はしっかり角度や中心がとれています。

佐藤 憲行

「希望」

非常にまじめに丁寧に書いています。とりわけ名前の部分は驚くほど正確に書いてあり、大変良いと感じます。

立山 智子

「笑顔」

とっても素敵な“笑顔”です。中心が少し左に曲がりましたが“笑”がとても美しく、この調子で頑張りましょう。

山田 明

「夏祭」

“祭”はどことなくユニーク。“うちわ”なんかに書いてあつたら楽しくなりそう。楽しんで書いてください。

佐々木 一重

「誠心」

毎年連続してご出品、敬意を表します。故人のお名前とか… 心をこめ、やさしく丁寧に書けています。

石塚 真理

「未来」

形の取り方がとても上手です。以前習っていたのでしょうか。全体としてはしっかり仕上がっているので… 筆の先をもう少し整えて…

千田 紀恵子

「創造」

この方もしっかりと形が整っています。次回は名前も入れてください。惜しまれる作品です。

村戸 健一

「乱戦争禁止」

ご自分の気持ちを素直に厳しく書き上げています。これだけの文字を乱れずに書くことは大変です。名前もお願いします。

綱田 倫之

「つき」

最初拝見したときは何歳の女性かなあ… と思ったくらい優しい線です。ゆったりと動いて爽やかです。

尾崎 博行

「愛」

堂々と大きく書けています。書きたくて難しい文字ですね。最後の払いを伸びやかに書くことが“コツ”でしょう…

日野 桃歌

「今」

淡い青墨が情感を伝えています… が書かれている“今”は非常に厳しい。大きな動きが魅力です。

末永 謙

「土」

どっしりとした縦画、爽やかな横画、最終画は気分が紙を走り素敵に“はなたれて”います。

平塚 悠斗

「夏」

淡い墨独特の重なりとニジミが柔らかさと複雑さを交互に見せています。二つある点がとても素敵！

斎藤 朝日

「ぼくはプールにはいりたいです」

ご指導に当たられている先生が自由に書かせている結果でしょうか。伸びやかで、とらわれない素敵なプールに仕上がっています。

櫻内 篤

「梅雨」

迷いなくスイスイ書いた作品でしょう。ハライのうまさに驚きます。

多田 京子

「つゆ」

とても素直に書けています。本当はもっと難しくとも書ける方でしょうが、次回を楽しみにしています。

後藤 凱

「七月」

どっしりと書いています。墨を恐れずに元気いっぱいに書いてください。これからが楽しみです。

山家 たみ子

「花」

堂々と書けました。最後の“ヒ”の部分は残念。もう一息ですね。

加藤 忠義

「花見茶屋」

手本は時として伸びる芽をつむことがあります。ただ“くさかんむり”の三本はこんな感じで…程度の目標設定は大切な…と思いました。

佐藤 英幸

「ホタル」

“ホ”の右まる、“タ”の上の白が意図したものなら、もうビックリです… 上手に白を見せてくれました。

木村 静香

「夢」

とても上手です。線も伸び伸びとしてスピード感があります。これだけ書けるのですから二文字にも挑戦してみてください。

石井 泰雄

「雨蛙」

昔から書き慣れた方ですね。間隔や中心がしっかりとされています。益々お元気で頑張ってください。

奥田 将太

「ツバメ」

なるほど自信を持って書いていますね。“ツ”的ハライもそうですが私は“バ”的表情が好きです。

高橋 直史

「題名なし」

随分長い間出品してくれています。にじまない紙に淡墨、墨だまりが特徴の作品。今年の暑さでは“たまり”が難しい。“そよそよ”は楽しい！

久保田 萌子

「夜空」

若々しい力強い線です。“空”は中心もしっかりとれて良かった。“夜”はバランスが難しいですね。

三浦 恵美

「ゆうやけ」

最初の“ゆ”は筆が墨に馴染んでいなかったか？“や、け”などはとても素直でやさしいですね。

佳 作

熊谷 隆

「元旦」

文字は小さいのですが一本一本の線には温かみがあり、ほんのりとした気分になれます。

大村 小夜子

「パリ五輪」

今年の特徴は何といっても時々の世の中に関連した文を書いていること！ゆったりとした線…バランスがもう一步でしたね。

武田 くみ子

「海岸」

海岸での想い出があったのでしょうか？不思議な魅力があります。整っているわけではありませんが、揺れが自然でとても良いです。

岩間 司将

「屋台」

今は屋台がすっかり姿を消して“祭り”の時くらいでしょうか？のぞいてみたくなる屋台…どんな場面でしょう。線がやさしい。

今野 浩

「たけのこ」

ひらがなは意外に難しいものです。“け、の、”の最後のハライができると更に良かったですね。

伊藤 勇

「土」

もともと文字の形がしっかり取れる人です。習っていたことがある人でしょうか？軽い行書でスンナリ書けています。

南 圭子

「五月晴れ」

手本があるとはいえ、これだけ書けているのですから、半紙を折ってマスにどっしりと書けると良いのですが、惜しまれます。

西村 幸枝

「新米」

名前までしっかり気持ちが通っています。これから新米の季節ですが、あまりの猛暑に出来が心配ですね。もう少し大きく。

長谷部 一子

「樹氷」

一文字を“カタマリ”としてとらえると大変楽しいですね。もう少し点、横をあけて伸び伸び書けたらと思います。

門間 美佐子

「あじさいきれい」

文字の作品というより、自分のメッセージの発信なのかもしれません。それも素敵なことです。名前を小さく、メッセージを大きくが良いかも…

遠藤 純正

「蔵王」

楽しんで書くことが一番です。次は美しく…でしょうか。“蔵”の右斜めが長ければ…もっと美しい文字になったのでは。

吉田 精一

「秋の味覚」

大変難しい課題に挑戦しています。昨年、短評に“少し文字が易しすぎるのでは？”と書いたのですが、今年は未完成ながら皆さん頑張っています。

齋藤 みのり

「全集中」

少し筆が小さいのでしょうか？言葉からするともっとグイグイ書いていった方が想いが伝わります。

白鳥 樹

「まま」

“もも”という二文字では気持ちが収まらなかった！桃のおいしさが伝わらなかった… どんどんももが増えていった。これも書として大切！

石森 和幸

「初夏」

元気良くどっしりと仕上げています。なかなか難しい文字ですが、実に丁寧に書けています。

鈴木 孝志

「登山」

小ぶりながら全体の統一感はあります。丁寧さも良く伝わってきます。山の容姿への思い… 私なら存在感を大切にしたいと願います。

小泉 明彦

「一」

右上がりに一本の横画、非常に悩みます…。私なら真ん中にではなく、微妙に上か下に書きたいですが…

首藤 勇二

「凧」

“凧”という文字は私も好きな漢字ですが難しい。お孫さんへの想いが表現されていて温かい。

江島 真理恵

「朱幸」

これだけ横画が多いと一本一本への工夫が大切となります。“朱”は大変良い。“幸”は三画目をグンと長く… 憎しい。

高橋 徳行

「平和」

一画一画しっかり書けているのですが、最後の“口”が大きくなってしまって残念です。ハライはうまいですよ…

佐々木 雅之

「凜」

“凜”という響きはとても素敵です。爽やかな線です。

三浦 裕貴

「おおたに」

“大谷”さんに希望を重ねている人がたくさんおります。とても素直な線です。私も高校・大学一年まで野球ばかりしておりました。

木村 美沙季

「うみがすき」

海が好き、というのは思わずこぼれた本音でしょうか?… どっしりとして迫力があります。

福田 英弘

「人生」

味わい深い線でできています。もう少し太めに書けると良いのですが…。

山内 美雪

「夏」

この夏の猛烈な暑さに私は少々バテ気味…。元気に生きたいものです。作品もなるべく伸び伸びと書きましょう。

阿部 志穂

「にじ」

線がとても素直です。ひらがな二文字ですから、もう少し大きく書きたかったですね。

佐藤 幸枝

「宮城」

小筆なのでしょうか… とても可愛らしく丁寧に書けました。せっかくですからもう少し大きく書いてみましょう。

鈴木 朱実

「朝の散歩」

とても画数の多い難しい文字への挑戦です。 “ヘンとツクリ”のある漢字は “ヘン”を少し縦長に狭くすると伸びやかに書けます。

新沼 喜美恵

「銀河」

丁寧に書こうとする気持ちが伝わってきます。 “銀”の “ツクリ”がもっと大きいと良くなりますね。

大沼 昭

「愛」

“愛”書きたくなり、また難しい漢字です。もう少しゆっくり書いてみましょう。

阿部 禮子

「光明」

筆が揺れるのは一向に構いません。“明”などしっかり書けています。無理なく続けてください。

櫻田 日向子

「合格」

“合格”何か目標があるのですね。是非頑張ってください。縦画をしっかり太く書くことが大切です。

吉川 優真

「青春」

楽しそうだなあ… と感じた作品です。形のことを申し上げれば、文字の中心はしっかりとりたいと思います。

阿部 光加里

「青空」

青空の美しさは格別です…が、『青』という文字は本当に難しいですね。全体の中心が取れるように頑張ってください。

江田 竜也

「月光」

自分のイメージで作品に向かうことは大切なことです。細かなこだわりと同じように、全体のバランスにも工夫したいですね。

小山 僚太

「努力」

非常に丁寧です。ハネ、ハライも慎重に正確に書こうとしている気持ちが伝わります。

小野 佑真

「色彩」

紙面いっぱいに元気よく書いています。『彩』の最後の三本の斜めは、もう少し縦気味にすると良いですね。

パピアニ畠谷煌潤

「挨拶」

しっかり丁寧に書く努力をしています。難しい文字ですね。名前も頑張っていますから、これからが楽しみです。

土生木 真澄

「花」

素朴な感じにまとめました。ハライの最後が今一步の気もします。筆を遠くに放つつもりで…

高橋 琢磨

「山」

全体の仕上がりは良いです。もっとどっしり書いても良かったような気がしました。

今橋 信夫

「巨人の星」

私も巨人の星の大ファンでした。イメージが伝わってきます。荒い筆の線がうまく表現できていると思います。

渡部 ルミ

「風」

ねらいが伝わりやすい書き方で、良く工夫されています。やさしい風として表現が成功しました。

伊藤 博文

「笑う」

ことば書きは一文字と違って表現が難しくなるように思えます。様々な構成、線の情感も試してみてください。

恵比志 友美

「みやぎの米」

ひらがなと漢字の組み合わせは私達にも難しく感じます。米の形の楽しさが良いですね。

遠藤 まどか

「七夕」

もう少し元気に書きたいものです。名前がとても優しい仕上がりなので、こんな感じが良いのかもしれませんね。

及川 健一

「月光」

“月”は大変上手く書き上げています。“光”は最後の足の部分を近づけると形がグンと良くなります。

佐瀬 智彦

「冷」

旗や額にすると、この暑さも吹っ飛びそうな“冷”になりました。

遊佐 茉未

「花火」

最近は花火を見る機会が少なくなり残念に感じます。“火”はハネ、ハライが難しいですね。

横内 順子

「風鈴」

今は風鈴などあまり見かけなくなりました。とてもまとまった“風”“鈴”はちょっと小さくなってしましました。

若生 敦也

「ドラえもん」

“ドラえもん”がカタカナとひらがなの混じりだと今回初めて知りました。とっても好きなんだなあ…と感じます。

大崎 弘

「夢」

あまり形や想いにこだわると難しい形の文字です。気軽に飾りなく書けていますね。

藤原 あかり

「七転び八起き」

点が形や方向を変えて転がっていく様子。それが最後にひと呼吸おいてぴたりと止まる。全体として一貫しています。

伊藤 平騎

「疾風」

私達なら同じ方向に行ったり来たりにしたいところを、風の強弱が長さや向きに表されているのでしょう。線の激しさが良い。

小松 愛音

「一」

線というものの不思議さ、難しさを考えています。少しづつ変わる一本への想いが複雑に入り込んできます。

及川 悠玄

「想い」

墨のかたまりの中におかれた“心”紙面を突き抜けた“い”読むことは難しくとも感じることの大切さを思っています。

猪又 凜二

「ぼくのなまえ」

何かに近づこうとしながら構成された三つのし、フ、ル。一本の中にある陰と陽が生命を宿しています。

南川 康弘

「台風」

優しい“台風”となりました。物静かに紙に向かう様子が伺えます。いつまでも楽しんで書いてください。

千葉 遥翔

「春草」

自然体で筆を運んでいて清々しい作品。とてもゆったり書けていますから、次回は紙いっぱいに書きましょう。

鈴木 伸明

「牡丹」

もうご自分のイメージがあるのでしょう。墨の含み方が慣れているので、しっとりと書きあがっています。もう少し大きい方が良いですね。

佐藤 祐子

「潮干狩」

これは難しい文字ですね。文字の一つ一つは正解ですから全体をもう少し上の方に書きたかった…

加藤 重子

「あじさい」

体に負担のかからない、緩やかに曲線で書いていく“ひらがな”は最適です。少しハライ、ハネを加えてみましょう。

武山 恵美子

「つくし」

皆さんそれぞれに想いがあって紙に向かいます。まずは楽しむこと。そして美しくを目指してください。

四富 昭彦

「文月」

名前を拝見すると、この作品がじっくり丁寧に書かれたものか良くわかります。もう少し太く書ければと感じました。

櫻井 啓好

「あじさい」

作品の出来にはまわりの方々の関わり方が大きく影響します。書くことが楽しみであるようにご指導ください。強すぎてもダメ… 難しいです。

山内 あや子

「七月」

小さいながらも力感が伝わってきます。何気なく書いた横画がとても魅力的です。

安藤 春斗

「筆の動くままに」

私達は書いているところを想像するしかありませんが、もう少し太い筆でググっと引いたら更に紙との闘いが楽しめるかもしれません。

皆川 邦彦

「ウグイス」

一本一本、均一な力で組み立てられ一字となります、実に丁寧になされています。この調子です。

遠藤 佑聖

「100m」

○や名前の“口”も自在に楽しく書いている様子がとても良い。

吉田 洋子

「花火」

名前を見る限りはもっともっと上手に書ける方だと思います。楽しんで書いてください。

日野 とし子

「海」

女性の作品と知りビックリ。グググっと書き進められた迫力は素晴らしい。名前もマッチしています。

真山 まどか

「こたつ」

用紙の真ん中に書くと良かったね。私、両膝が思うように動かなくて辛い時があります。体調と相談しながら頑張って！

小笠原 智子

「かに」

まるで蟹の甲羅のように見える“か”が豊かです。

眞柳 喬

「峰」

どの画も疎かにせず丁寧に書いています。出品作全体ですが、もう少し大きければ… そんな感想を抱いています。

写真部門 審査結果・講評

金賞

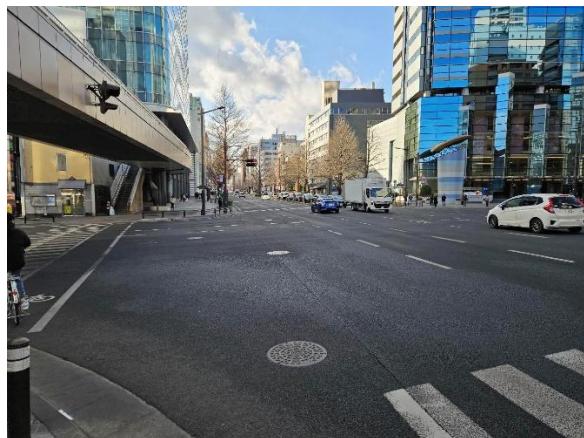
加藤 俊雄

「チューリップ祭り」

チューリップ畑の広がりが点景の人物でより強調され、気持ちの良い作品に仕上がっている。

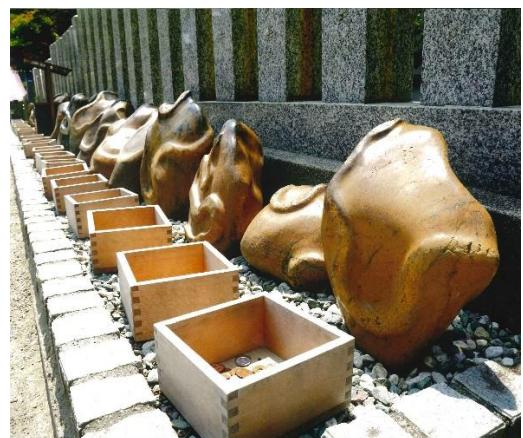


銀賞



畠山 俊春 「道路」

さりげない街並みの風景だが、広い道路の手前中央にマンホールを取り込んだことで、引き締まった作品に仕上がった。



中嶋 真土 「一陽来福」

一陽来福は冬至のこと。金蛇水神社は金運の神。金運を招く升を切り取って作品とした視点が良い。

銅賞



佐々木 敏方 「白い主張」

紫陽花の中に白い花を取り込んだことで、一つの主張を見せた作品。



菊地 晶彦 「かわいい鴨たち」

泳いでいる鴨の親子。親の後を追う雛を上手く捉えられている。



千坂 昇 「我育てし八重のトルコ桔梗」

花瓶に挿した花を写した作品だが、バックを黒く落とし無駄なものを排除して仕上げたあたり、なかなかの作品。

奨励賞

高橋 秀一

「釣石神社」

独特の注連縄を強調して切り取ったところが良い。

渡部 ルミ

「彩りの参道」

紫陽花の参道の前景に大きく丹の鳥居を置いたことで、引き締まった作品となった。

渡邊 久義

「冬の戯れ」

水鳥の羽ばたきを戯れの一瞬と捉えて切り取った作品。

渡邊 寿道

「美味しい蜜みーっけ」

蜜を求めてくる蜂を花の中心に置き、狙いを明確にしたところが良い。

佐藤 純一

「聖域」

神域の清らかな藤の花を切り取り、聖地の有り様を表現した作品。

尾崎 博行

「私に気付いて」

真紅の彼岸花の中に白花が咲いていた。その色の対比の中に「私を見つけて」と主張している声を感じ取った作者の感性が良い。

佳 作

渋谷 美紀

「花たちの語らい」

紫陽花の群れを花の語らいと捉えたところが良い。

渋谷 有希

「こころの帰る場所」

神社だけを切り取り、心の拠り所を捉えたところが良い。

寺川 龍司

「壯觀な満開の桜」

満開の桜を見つめる人物を置いたことで引き締まった作品となった。

沼倉 信子

「一本桜」

残雪の山脈を遠景に置き、画面中央に一本の桜を取り込み、気持ちの良い作品に仕上げている。

相澤 純一

「はたらくアリ」

晴れた大地で獲物を見つけては巣に運ぶアリを発見し、思わずシャッターを切った作品。狙いが良い。

相澤 由里

「黄色の絨毯と桜のコラボ」

前景に菜の花を置き、中間に桜並木、その後に黒い山並みを配した構成が良い。

栗原 智彦

「頑張る桜」

散り始めの桜を見て「まだ頑張れるぞ」という声が聞こえてきた。この作者の感性が良い。

千葉 ゆきえ

「鮮やかな芝桜」

鮮やかな芝桜の色彩に思わずシャッターを切ったのでしょうか、花だけを切り取ったところが良い。

